

The Спасибо JOURNAL of MEDICINE

ARRIVED AT 8/25

AUGUST 27

vol. 2

カザフスタン活動記第3日目(8月27日) ～IPPNW初日～

Masashi Kuriyma, Airi Kuruma, Kanako Yokoyama, Kazuya Maeda, Daiju Ueda

ABSTRACT

9:00-10:00 Opening Ceremony 来賓の方々からの挨拶
10:30-12:10 Keynote Addresses 核廃絶に向けた総論的な内容でした
13:10-14:40 Plenary 1 核廃絶に向けた人道的なアプローチ
15:00-16:30 Japan Workshop 眞鍋先生, 木村先生によるフクシマの放射能被害の話でした
19:00-22:00 Welcome Party 本日の労をねぎらいつつ, 各国と交流しました

Opening Ceremony: by 横山 加奈子

オープニングセレモニーでは、カザフスタンIPPNWの代表、外務大臣、プーチン大統領(文章のみ)などなどより歓迎の挨拶をいただきました。最も印象に残ったのは、旧ソ連時代に何度も核実験が行われているセミパラチンスク近くの村で生まれ育った両腕のないカザフスタンの画家、Karipbek Kuyukov(カリブベク・クユコフ)さんのスピーチでした。彼のは、医師はヒバクシャ心強い味方だ、と言ってまいした。すごく嬉しかったです。世界のヒバクシャがまだまだ苦しんでおられるのを改めて知るとともに、しっかり味方となるためにも、科学者として人間として、ともに歩んでいきたいと思いました。今回のIPPNW総会で、なかなか目新しい情報、考え方に会えていません。そんな中、武田先生、眞鍋先生、木村先生の福島の現状を伝えるワークショップは際立っていたと思います。とっても勉強になりました。帰ってからまた頑張ります。



fig.1: レセプション前にて

Keynote Addresses: by 植田 大樹



fig.2: メインホールにて

正直な感想はまだまだ序の口という感じでした。IPPNWも始まってすぐなので、“核兵器がもたらす健康被害や環境被害をしっかりと明らかにして、禁止していくべき”だとか、“既存の国際法から取り締まっていくか、新たに国際法を制定して取り締まっていくべきだ”といった教科書的な理論の展開でした。その後の具体的な動きなどには深い言及はありませんでした。今後どんどんと枝葉に分かれていき、深い議論がworkshopにて聞けること願いつつ、昨日の疲れもありややぐったりとしていました。印象に残った言葉としては、“核兵器を使うとwinnerはいない”や“核兵器は力の象徴や技術の象徴でなく不安定性の象徴である”といった言葉がありました。まだまだ自分は国際的な健康問題に考えを馳せることができていないな、と感じました。はっきりした意見を持ち、外国人と英語で議論できたらどんなに楽しいんでしょう。一つ大きな目標ができました。

Plenary1: by 栗山 政士

ここでは3人の先生方が話をされた。もし核が使われたら、地球規模に影響が出る。気候は変わり、食料の生産量は減少し、人々の健康は奪われ、皆が敗者になってしまう。核弾頭の使用によって勝者は1人も生まれない。そうならないために、みんなで信頼、協力しあって人道的なアプローチしていくことが必要だ。このようなことが話されていた。初日ということもあって、総論的な内容であった。世界中から集まった方々が皆、平和を望んでいる。そこに自分がいる。英語もあんまり分からないし、何もできないけれど、これから何か起きる気がする。そんな気にさせられた。明日明後日と、世界平和について考え学びたいと思う。この後は、本日のメインイベント真鍋先生と木村先生のワークショップ!!!!

Workshop: by 来間 愛里



fig.3: 日本によるworkshop

今日は日本のWS "Health effects of the Fukushima disaster." 何となく漂う緊張感に写真係の私も勝手にドキドキ。会場もいっぱい大盛況。やはりフクシマのことは世界が気になる場所なのでしょう。座長を武田先生として真鍋先生と木村先生のプレゼンです。内容に関しては私の稚拙な文章では書けませんが、とても興味深かったの一言。聴き入ってしまい、つい写真を撮るのを忘れるところでした。もっと聴きたいそんなプレゼンでした。会場の方々も熱心に聴いておられました。通訳のお二人も大活躍、また会場内ではロシア語に訳す方もおられ周囲の方々が聴き入っておられました。質疑応答もたくさん飛び交い、終わった後、ほっとした真鍋先生の笑顔はとっても素敵でした。本当にお疲れ様でした。最後の横山先生のはだしのゲンの紹介も素晴らしかったです。夕食の時にはこのWSに感銘を受けたというドイツとインドからの学生が声をかけてくれてとても盛り上がりました。書きたいことはたくさんありますが眠くてたまらないので続きはまた明日。

Welcome Party: by 前田 和也



fig.4: 一部メンバー集合写真

夜にはWelcome Partyが開催されました。PANWのワークショップを聞いていたドイツの青年が、日本の青年と話をしたいと私たちを訪ねてくれました。「福島原発事故が起こったのに、日本の人は保守的すぎると思う。若い世代はどう思っているのか知りたい」ということだったので、毎週金曜日に国会前や全国各地で抗議行動を行っていることなどを紹介しながら、それぞれの意見を交流しました。また、日本のマスコミが原発反対の取り組みを報道しないことを話すと、ドイツには政府から独立した放送局があることを教えてくれました。短時間でしたが、とてもフレンドリーになり、楽しい時間を過ごせました。



fig.5: ドイツ人, インド人と